
罪人は黎明を告げる

未命

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罪人は黎明を告げる

【Nコード】

N8475H

【作者名】

未命

【あらすじ】

ありとあらゆる生命が精霊の加護を受ける世界、エルネシア。そこには、光も闇も、希望も絶望も、喜びも悲しみも、全てがあった。始まりは、ある少女の運命の出会い。やがてその波紋は国を、世界を巻き込み、人々の心を揺れ動かす。「大丈夫、もう迷ったりしない。私は私として、最後まで生きていく。」悲しみと絶望の淵に立ち、それでも前へ進む少女の姿は・・・悲痛なまでに美しかった。

はじまりの詩

かつて世界に大きな戦乱があった。

国々が世界の覇権をめぐり、多くの命を犠牲にして、それでもなお止まることを知らなかった戦乱は世界を支えていた精霊にも多大な影響を及ぼした。

炎の精霊の加護を受けし国は、その恩恵を忘れ、国を燃やし、精霊をも傷つけた。

水の精霊の加護を受けし国は、精霊の命を削ることで国を支え、大地は水を失った。

風の精霊の加護を受けし一族は、流れる本質を失い、やがて風と共に生きることをやめてしまった。

大地の精霊の加護を受けし種族は、その力に溺れ、精霊を怒らせ、生きる場所を失った。

多くの精霊が死に絶え、去っていった世界に、もはや希望はないと思われた。

かの英雄が現れるまで。

かの英雄はただの少女だった。

力なき小さな少女だった。

だが、比類なき英知と勇気を持った異界の少女だった。

力なき小さな少女は、放り出された異界の大地で、それでもなお必死で立って歩いた。

今を耐え、腕を震わせ、唇を噛み、涙を湛え、泣き声を我慢し、顔を上げ、目を逸らさず、必死に前を向いて歩いた。

気がついたら、少女の周りには少女を支えようと、共に生きたいと願う人が集まっていた。

その心と姿に魅せられ、忘れていた精霊と共に生きることを思い出す人が増えていった。

いつしか、少女の歩いた後に、誰も知らなかった未来への道ができていた。

深い闇の中にあつた世界に小さな希望の灯火が燈つたのだ。

そして、世界は新たな扉を開くこととなる。

この物語は、自らを罪人と称し、終わり無き道を必死で歩いた少女が紡いだ、黎明を告げるサーガである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8475h/>

罪人は黎明を告げる

2010年10月9日20時59分発行